

第10回安全衛生大会の実施結果【速報】

令和元年7月23日(火)14:00~16:50、

情報文化センター 情文ホール

参加者 106名

◆当日の講演資料については、
会員専用サイトに掲載します。◆

RESOURCE
CIRCULATION
KANAGAWA



藤枝会長の開会あいさつ

令和元年度 労働安全衛生の標語（スローガン）の結果発表と表彰式

■ 最 優 秀 賞 ■

安全は ひとりひとりが責任者
危険予知して 無災害

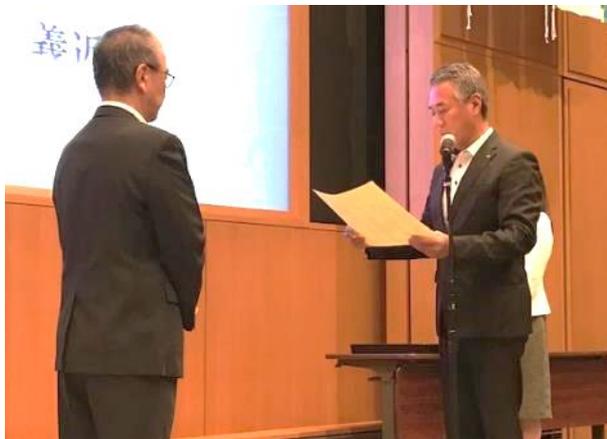
株式会社環境管理センター
扇 亮太郎 様の作品



安全衛生の標語（スローガン）の募集から選び抜かれた優秀賞です。

おめでとうございます。

	スローガン	氏名	会社名
優 秀 賞	慣れてきた 思う油断が ケガの元	儀間 義近 様	J & T 環境株式会社 川崎エコクリーン
	安全を 全てに優先 基本動作と危険予知	高橋 亮一 様	株式会社市川商事
	思い込み 危険が潜む 落とし穴	影山 将太郎 様	ジャパンウエイスト株式会社
	摘み取ろう 慣れと油断に 潜む事故	鵜澤 洋 様	株式会社 陽 報
	無理しない！ 初心に戻り 安全作業	佐々木 紳一 様	株式会社加瀬興業



若松議長から表彰状授与



記念品授与

■ 講演 ■

『産業廃棄物処理業における労働災害発生の現状』

講師 神奈川県労働局労働基準部安全課 安全専門官 渋谷 勇一 氏



平成 30 年全産業の休業 4 日以上死傷者数は、909 人、前年年 978 人と全国的に見て全産業における労働災害の死亡者数は減ってきているが、産廃業では増えている。

労災を未然に防止するには、しっかりとリスクを特定し評価することが大切である。

全国統計から見た神奈川の現状は、平成 29 年ではワースト 3 位、平成 30 年にはワースト 2 位 最近の傾向としてはトラックが起因となる災害が多くなってきている等の具体的な事例を基に見落としがちな注意点と関係法令について、また、夏を迎えるにあたり、熱中症の症状や重篤度や熱中症のタイプとその対処法について説明があった。

『墜落災害の防止対策強化について』

講師 労働安全コンサルタント 二階堂 久 氏

県内産業廃棄物業では、労働災害における墜落・転落災害発生は、95 件中 19 件、その内訳は死亡 2 件、骨折 13 件、打撲ねん挫 4 件となっている。骨折の原因は墜落・転落災害となっている。

今までの胴ベルト型に起因する死亡災害は、平成 18 年～27 年で墜落時に宙づりになった際に胴ベルトがずり上がって圧迫され死亡したケースが 6 件あり、宙づりや安全帯が脱げたケースや安全帯使用に関わらず地上等に衝突したケースなど多発している。

今回の改正のポイントは、墜落制止用器具として認められるのは胴ベルト型、ハーネス型いずれも一本つりとなっていること、フルハーネス型が原則、特に危険性の高い業務を行う労働者については、安全衛生特別教育（学科 4.5 時間、実技 1.5 時間）を受けなければならないことの説明があり、それぞれの特徴や改正の背景についても詳しい説明があった。





(公社) 日本保安用品協会
アドバイザー増田 庄司 氏から「保護具の正しい選び方、使い方」について
従業員への安全の取組みは、まず作業環境改善が最優先であり、
保護具は最終手段。

保護具がいない環境づくり（軽装で済むような環境をつくること）それ
は、保護具を使用することにより生まれる新たなリスクが発生するため、
作業にあったタイプの保護具を正しく選定し、正しい使用方法を学ぶ
必要がある。

呼吸用保護具にも、さまざまなタイプがあり、規格を満たしていても限
界がある。
そのための教育訓練やアドバイスサービスについて有益な説明があった。

J&T 環境株式会社の取組み

J&T 環境株式会社 安全管理室長

芝原 健治 氏から事例紹介



日栄工業株式会社の取組みとして
日栄工業株式会社 環境安全
室長 中山 哲 氏から事例紹介



ご安全に！

(公社) 日本保安用品協会によるパンフレット・資料、各種保護具の展示

